

# 全国大例プロジェクト 成功発信プロジェクト 2018

## 第2弾 江津青年会議所

中国地区の島根ブロックにある江津（ごうつ）青年会議所は、人口24000人ほどの市にありながら会員数は84名、うち女性会員率は19%というLOMであります。また、北海道地区で4月に開催した「第2回北海道拡大維新セミナー」にて講師を務めて頂きました宇都宮将先輩の出身LOMでもあります。『We Believe』（3月号）においても革新的な組織変革の取り組みが紹介されましたが、今回はその組織変革に取り組んだ経緯や具体的な拡大運動の詳細について、坂根昌幸理事長と拡大担当者である佐々木亮委員長からお話を伺わせて頂きました。



坂根 昌幸 理事長

**江津JCの会員数はこの5年間で激増しています。が、きつかけは何だったのでしょうか？**

拡大のための異業種交流会に講師としてお招きした上田博和先輩の言葉が一つの転機だったと聞いています（私はまだその当時、未入会でした）。

講演会場への移動の際に江津の町並みを目にした上田先輩から、「企業の数が少な過ぎる。普通に拡大やってもダメだよ、このマチは。サラリーマンと女性会員が入会しやすい組織を目指さない。そうしないと、江津JCは5年以内に消滅するよ。」とアドバイスをいただいたそうです。

江津JCがそのアドバイスを愚直に従った結果、現在の成果繋がっていると、入会してから現在まで見てきたなかで感じていきます。

**女性会員もかなり増えているようですが、何か工夫をしているのでしょうか？**

例会でのベビーシッター制度  
産前産後休業・育児休会制度  
これらの制度は、ここ数年の間にできた制度です。40歳までの数年間は、女性会員にとつて出産・育児というライフステージの中で重要な時期に当たります。  
出産という、本来であれば本人にとつても周りにとつても喜ばしいことが、「本当は、JC活動を続けたい！」という女性会員にとつて葛藤のタネになっている現実を前にして、これらの制度ができました。  
江津JCには、組織の変革を恐れない「思い立ったらすぐ実行」みたいな風土があります。  
会員の感じている困り事や、退会の原因などを探って、対応可能なものはさっさと手当てしてしまうスピードがあります。それは江津JCの良いところだと思います。

**素晴らしい組織変革ですね！会員拡大には具体的などのように取り組んでいるのでしょうか？**

上田博和先輩のアドバイスにより、「フィルターをかけない」ことを意識して拡大活動を行っています。  
・経営者や二代目じゃないから…  
・地域活動とか興味無さそうだから…  
・忙しそうだから…  
入会するかしないか、それは我々が

決めることではなく、我々にできるのは機会の提供のみ。  
一人でも多くの若者に成長の機会を提供すること。  
拡大はLOMのためというより、拡大候補者のために行うもの、という意識で候補者に接しています。

**それだけの行動量を生み出していくために、理事長として意識されていることは何ですか？**

メンバーを鼓舞するため、自分の拡大活動についてメンバー専用Facebookグループに投稿するようにしています。  
メンバーが計画した拡大活動にも、日程が合えばできるだけ参加するようにしています。  
様々なメンバーが在籍していて、それぞれが江津JCを愛していることが伝われば、それが何よりの拡大活動に繋がると考えているからです。

**短い期間で会員数を激増させると、今までにない課題が発生しそうですが、LOMに感じる課題はありますか？**

入会後間もない若手が新入会員の指導をするという状況が続く中で、様々なことの承継がうまく回っていないことが目立ってきました。  
2018年現在、3年目未満の会員が6割を越える状況です。  
若手に手厚いフォローができるよう

に育成系の委員会を置いたり、中堅メンバーの結束力強化を目的とした委員会を置いたり、組織造りの部分で対応を試みています。  
**最後に、今後の抱負をお願いします。**

2019年度に江津青年会議所は45周年を迎えます。40周年の際に約束した「100名LOMになる」という約束を果たすため、2018年は最後の仕上げの年になります。  
現役メンバー一丸となってこの目標を達成し、晴れて100名LOMとなった状態で45周年を迎えます。



佐々木 亮 委員長

**佐々木委員長が入会の勧誘を受ける以前は、江津JCのことを知っていませんでしたか？知っていた場合は、JCに対してどのようなイメージを持っていましたか？**

江津JCのことは知人のFacebook越しにほんの少し知っていた程度でした。

おそらく、地域のボランティア的な団体なんだろうなと思っていました。当時、家と仕事の往復で何となくすぶっていた状態でして、成長や多くの人との出会いを求めている私は、よく分からないながらも入会を決意しました！

**佐々木委員長は、どのような勧誘を受けたのですか？**

正直なところ、江津JCはこんな理念を持ってこんな活動をしている、といった具体的な説明というより、「今ならこんな人が在籍しているからラッキーだね」とか、「とにかく熱い団体なんだよ！」という感情に訴えかけるような勧誘だったという印象でした。自分もこうして入会したので、1つの勧誘の形として有効なのかもしれないと思っています。

**その中でも、特に入会を決断した決め手になった部分はありましたか？**

決め手としては、やはり「多くの出会いがある」という部分でした。特に、江津JCには魅力的な方が多い、という話も聞いていました。仕事が終わってからは暇な時間も多くて、時間を持て余していたので、そういった魅力的な方々と関わる時間に充てて、自分を高めていきたいという想いがありました。

**では、現在までJC活動を行ってきた中で、JCに対するイメージはどう変わりましたか？**

入会した当初は、入会前に想像していたよりもずっと真面目に活動している団体なのだと思い、まずそこでイメージが変わりました。その後活動を続ける中、単年度制という組織の仕組みにより、地域の文化や経済、組織の在り方、チームワーク、事務処理やパソコンスキル、

広報、礼節、はたまた人間としての生き方等々を、その年々の役職の視点から総合的に学ぶことができる大人の「人間道場」といったイメージを現在は持っています。

**入会后、佐々木委員長も新入会員への勧誘は行っていたのですか？**

私も、友人や知人に声かけはある程度行っていました。しかし、自分自身がまだJC歴が浅くて江津JCのことがよく分かっていたいなかった時期には、「胸を張って人に勧めて良い組織なのかどうか？」という部分に疑問が残っていたため、なかなか積極的な会員拡大活動ができなかったという覚えがあります。

ですから、人に勧めるためには、自分自身が強くJC活動に充実感を持ち、胸を張って人に勧めることのできる組織であるという実感を持つことが、まずは重要であると現在は考えております。

**最後に、当時の新入会員の立場から、今後、拡大活動を行っていく北海道のメンバーにアドバイスなどがございましたら、何でも教えてください。**

私も日々悪戦苦闘なのですが、やはりLOMのメンバー全体を巻き込んで意識を統一してやっていくことが重要であると考えております。また、本年度江津JCは仮入会制度

を設けておりますが、やはり実際の例会、委員会、事業等を体験していただいて、はじめて伝わる魅力もあるかと思えますので、言葉だけでなく実際の現場に招待するというのも有効な手法かと考えております。

# 全国拡大プロジェクト 成功発信 2018

## 編集後記

上田博和先輩のアドバイスがきっかけとなり、愚直に行動を起こした成果がこの5年間の激増の要因であり、「2019年の45周年を会員数100名で」という目標を実現させる情熱が伝わって参りました。

突然で急なお願いにも関わらず、「私たちの話が役に立つのならば・・・」と快諾して下さい、取材にご協力頂きました江津JCの皆様、特に森口善宣専務理事にも大変お世話になりました。この場を借りて心より感謝と御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

拡大維新特命会議

議員 長浜謙太郎